

2 観光・商工業振興

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、町内の観光・商工業は深刻なダメージを受けています。新しい生活様式の中で感染予防対策を充実させ、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて事業を実施します。

九重“夢”大吊橋は今年で15周年を迎えます。誘客キャンペーンの実施、施設のキャッシュレス化等によるサービス充実により利用者の回復に努めます。

第5回「山の日」記念全国大会が8月に本町をメイン会場として開催されます。“山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する”大会となるよう、町の豊かな自然をPRしていきます。

→第5回「山の日」記念全国大会（10ページ）

商工振興は、関係機関と連携して個々の相談にも応じることができるよう「伴走型支援」

を意識しつつ、事業者とのつながりや強固な信頼関係を構築できるよう事業を実施します。

生活支援から経済再活性化まで、商品券事業や誘客キャンペーンなど、時機に応じた支援に努めます。



15周年を迎える九重“夢”大吊橋

●大吊橋施設整備改修事業	621万円
●観光情報発信等事業	356万円
●山の日記念大会関連経費	430万円

3 農林業振興

令和2年7月豪雨による農地・農業用施設の損害は甚大であり、被災箇所の早期復旧が急務です。また耕作条件の厳しい中山間地域が多く存在することや農業従事者の高齢化による減少により、担い手の確保、農地の集積、省力化や低コスト化等が課題です。

コロナ禍の影響による都市部から農村への田園回帰の傾向を受け、新規就農者及び担い手の育成・確保を行っていきます。そのため、県外での就農相談会への参加など情報発信に努めながら、ファーマーズスクール、国や県の支援、町の就農支援事業を活用し推進します。

パークマットを培地として用いた園芸作物栽培方法は、パークマット栽培推進協議会を中心に、引き続き栽培方法の確立に向けて実証実験を進め、取組の総括も行っていきます。

九重町地域農業サポート協議会を令和2年11月に発足しました。協議会が将来の地域農業の受け皿となるように、県や関係団体と協力しながら組織の充実を図ります。



3月に実施されたパークマット実証報告会

●活力あふれる園芸産地整備	2,059万円
●農業次世代人材投資	2,175万円
●このえ産材利用住宅建築推進事業	200万円
●原木椎茸生産量維持拡大	450万円
●有害鳥獣捕獲報償	3,321万円
●集落孤立防止・里山整備事業	1,287万円

令和3年度

施政方針

〈一部抜粋〉

3月1日の第1回九重町議会定例会において、日野康志町長が今年度の町政運営の基本的な考え方について施政方針演説を行いました。



1 防災・生活

災害から身を守るためには、住む地域の災害リスクを知り、防災気象情報を基に迅速かつ適切な避難が重要です。事前の備えや災害が発生する危険性が高まった時の早めの避難等、防災意識の向上に向け啓発と訓練等を実施します。

令和2年度より工事に着手した防災行政無線のデジタル化は、令和4年度までに整備を完了し、情報伝達手段の強化を図ります。

→防災行政無線のデジタル化（12ページ）

高齢者を狙った特殊詐欺による被害が後を絶たないことから、特殊詐欺等防止機能付き電話機の購入補助を継続します。

証明書取得の利便性向上のため、引き続き飯田公民館で証明書の交付を行います。マイナンバーカードについては、窓口での申請補助に加え、昨年11月より実施している17時以降の時

間外窓口の開設を引き続き行い、日中来庁できない方への対応を図り取得推進に努めます。

令和2年7月豪雨による町道・河川の被災箇所について、緊急度を考慮するとともに出水期に向けた早期復旧に取り組みます。

町営簡易水道は、重原・尾本地区の配水施設の更新を行い地域飲料水の安定供給を図ります。また、地区水道は県・町の補助制度を活用して施設更新することで安定供給を図ります。

●防災行政無線デジタル化整備事業 (令和4年度まで順次整備)	2億848万円
●令和2年豪雨災害復旧事業	4億5,628万円
●消防車購入事業	2,827万円
●小規模給水施設整備事業	7,000万円
●釣住宅宅地造成事業	6,700万円
●地域づくり推進補助	1,700万円